

て、日本の組合運動の新陣容を確立する同時に、此の新たなる陣容の下に労働階級の大衆を組織する爲に、有力な団体をしなければならぬ。そして之が爲には、階級的自覺の比較的のくわれてゐる労働者の大衆に對して、一層活潑な組合運動の宣傳をしなければならぬ。日本の組合運動は、其の分量以上の戦闘力を有してゐるが、宣傳の方の缺けて居ることは争ふこゝが出來ぬ。大正十二年は此方面に於ても一大進歩をしなければならぬ。

大正十一年は、組合運動の根本思想を確立した點に於ても、著しいものがある。大阪に於ける住友その他の工場に於ける、僱主と労働者との混合委員会の経験は、階級協力主義の事實の上から打破つたものである。之によつて労働者は、純粹に労働者のみから成る工場委員會を組織して産業の管理権を要求しなければならぬことを経験した。國際聯盟労働會議の否認も、日本の労働運動は俺くまで階級闘争主義の上に立つて、資本家及び資本家政府の一切の協力を排斥する宣言を見ることが出来る。労働總同盟が其の綱領を新たにしたこゝも同じ意味に於て特筆に値する。

大正十一年の今一つの特徴は、階級闘争の戰線が、單なる經濟上職業上の問題から、對國家の問題——即ち政治的闘争——に擴大せられたこゝである。組合運動の初めに當つては、労働者の政治的運動とは、要するにブルジョア政黨の選舉運動を助けるこゝに外ならぬものであつた。そこで労働階級は先づブルジョアの政治的運動を否定した。然るに労働階級の階級的意識が鮮明になり、階級的結成が堅固となるに從つて、労働階級は昔日のようにブルジョアの政治運動に巻き込まれぬ代りに、労働階級自身の政治的運動を以つて、ブルジョアの政治運動に對抗するようになつた。一切の階級闘争は、必ず政治的の闘争となるからである。勞農ロシアの承認がメーデーの標語となつたここ、英國労働團體の飛機に應じて、労働總同盟がシベリヤ撤兵と對露通商再開の要求の決議をしたここ、資本家政府の主權による労働會議否認の運動が起つたこゝ、組合労働者を中心にして、對露非干渉同志會の運動が始まつたこゝ、すべて是等の運動は、ブルジョア國家に對する労働階級の政治的行動であつて、階級闘争の戰線が、純經濟上の闘争から漸次に政治的闘争に擴大せられつある著しい特徴である。大正十二年は、此點に於ても新しい進歩を見るに相違ない。

資本家階級の攻勢を以て開かれた、大正十一年の幕は爭議團全部を檢索し六十餘名の收監者を出だした大島鐵工所の事件に於ける、ブルジョアの暴虐を以て閉ぢようとする。吾々は大正十一年に與へられた経験を最も有効に、大正十二年の闘争に現はねばならぬ。(十一月十三日)